かわさき

令和３年度川崎小
学校だより
第 ２ 号
4月30日発行
文責　校長

クウェート国とのオンライン交流

交流終了後，市長の話を聞く６年生

４月２４日（土）二本松市役所６階の正庁において，二本松市とクウェート国のオリンピック・パラリンピックホストタウン事業の一環としてオンライン交流が実施されました。本校の６年生は昨年度，川崎和紙で作った「押し絵」をクウェート国に贈呈したという縁で，今回，市役所へ招待されました。会場には，大型モニターが設置され，クウェートオリンピック委員会のサバーハ会長やザマーン駐日クウェート大使，丸川珠代五輪担当大臣が各地からオンラインで参加しました。初めに二本松市がクウェート国選手団の事前合宿を受けいれるという協定が結ばれました。その後，６年生がサバーハ会長やザマーン大使に質問をし，それに答えていただくなどの交流が行われました。会話は全て英語の通訳が入り，国際理解のよい体験学習となりました。終了後，三保市長から，お褒めの言葉をいただきました。

「家族読書」について

****

本日は，本年度最初の「家族読書」の日です。本校の「家族読書」は毎月，第４金曜日から日曜日にかけて設定しています。お子様とご家族が読書に親しむ時間を設定し，家族のコミュニケーションを深めたり心を豊かにしたりするための取り組みです。

＜第３期二本松市子ども読書活動推進計画（二本松市教育委員会）より一部抜粋＞

学校での読書活動に対して，家庭で行う読書を「家読（うちどく）」といいます。子どもが本に親しむために，特に小学生においては、各家庭で保護者が自ら読書をする姿を見せ、時には家庭内で本についての会話を持つことも、子どもが自発的に読書をする習慣を身に付ける上でとても重要なことです。同じ本を読んでもそれぞれの興味や発達段階によって、「気づき」は異なります。自分なりの「気づき」や「感想」を自分以外の人に伝えることは、子どもが大人になり、社会生活を送る上で欠かせない能力です。

本市においても、平成 29 年 3 月、安達地区読書推進委員会作成の「家族読書おすすめ１００選」のパンフレットを活用して、家庭における読書推進を図ってきました。「家読（うちどく）」は、「家族読書」の略語で「家族ふれあい読書」を意味し、「家族みんなで読書をすることで家族のコミュニケーションを深める」ことを目的にした読書運動です。

家族読書おすすめ１００選